

2教学改革計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指標 (2020~2024)					主な取り組み (2024年度計画)	2024年度及び中期計画期間の主な実績・評価等		
			2020	2021	2022	2023	2024				
②学部等の新設・募集停止・改組・定員管理等	持続的かつ安定的な園児数の確保	園長	入園定員充足率(%)	0歳	167	167	200	133	156	2023年度も4月時点で定員割れしているが、在園児の兄弟児や親子広場参加者の入園により、2月に定員となった。6年目に入り、転居する園児や学区内の子どもの数の減少が目立っており、来年度定員数及び1号認定児の定員数の変更を考えたい。	2024年度も保育の質や保護者支援の向上を図りながら、SNSなどをを利用して学区内だけでなく、学区外・管外の入園対象児の増加を図った。5年間で笠間市全体の就学児前人口の減少が著しく進んでいる為、今後更に園児確保が難しく、定員割れが続く場合は、定員変更を視野に入れる。
				1歳	158	89	89	95	63		
				2歳	150	85	85	80	80		
				3歳	97	116	124	112	96		
				満3歳							
				4歳	70	112	100	100	104		
				5歳	70	84	124	104	100		
				合計	100	103	113	102	95		
				※各年度末	※定員変更						
3歳児クラスの適切な規模の保育	3歳児クラスの適切な規模の保育	園長	主幹保育教諭							3歳児クラスを園児7:3に分け、担任2名:1名の2クラス制にすることで、途中入園児や年度途中での満3歳認定変更や配慮が必要な園児に対しても対応可能となった。	新規入園児他、兄弟児の途中入園児に対しても、満3歳クラスへ認定変更を行うことで、未満児クラスの枠を通年確保することができた。今後も非常勤職員やフリーの職員を活用し柔軟な職員配置を行なっていく。
乳幼児クラスへの職員の配置	乳幼児クラスへの職員の配置	園長	主幹保育教諭							2024年度はスタートが19名と少数だが、2クラス制を引き続き採用する。保育士配置は、アレルギー児や配慮を要する園児がいるため、両クラスに加配保育教諭を配置し、十分な支援を行っていく。また満3歳児の受け入れを引き続き行う。	2024年の文部科学大臣賞受賞から、1月に笠間市より一般表彰を受けたことにより未就園児を持つ保護者に対して本園の理念や特色が浸透した。また本園のSNS他新聞・市の広報媒体を通して市内外にアピールできた。
管外・学区外からの園児確保	管外・学区外からの園児確保	園長	管外入園 学区外入園	3名 21名	3名 8名	5名 9名	0名 10名	1名 10名		他園の定員変更があり乳幼児の入園枠が増え、昨年より確保が困難になった。しかし、兄弟児の途中入園希望者が10名を超えており、乳幼児クラスの枠を保つために、柔軟な職員配置を行う。	2024年も乳幼児の入園枠が増えており、保護者に加え、近隣の市（石岡・桜川等）にも働きかけていく。昨年はコンテストや新聞・市のSNS等を活用し、いなだこども園の存在をアピールできた。笠間市今年度は他市向けに、わかりやすいチラシを作成する。
他園との差別化 (体調不良児保育の開設)	(近隣の小中学校との連携)	園長	体調不良児保育利用数/月	58件	43件	41件	45件	70件		他園でも看護師常駐の園が増えた。昨年度は園歯科医による講話を家庭教育学級で行ったが、今年度も他医療機関と連携し、体調不良児保育だけでなく、講話やお便りなどで、保護者に向けて看護師が常駐している意義を高めていく。	稻田小中学校と隣接している利点を活かし、積極的に交流して園児と触れ合う機会を作り、就学した後の学校生活をイメージさせる。中学校生徒会より新たな交流会（ハロウィンなど）の提案もあり、地域コミュニティの一員として地域と関わり、多くの人々に見守られ、成長していく環境づくりをしていく。
			こ小中引渡訓練 こ小中挨拶運動 一年生交流会 中学生職場体験・交流 こ小中職連携協議会	未実施	7月	7月	7月	6月		2023年度より新たにこ小中連絡協議会が始まった。学力向上・行事・生徒指導・特別支援の4つのグループで、学区全体で円滑な接続を行なっていく。	2024年も年長児が中学校主催の高校書道部のパフォーマンスに招待を受け参加した。地域交流の一環として親交を深めていく。

2 教学改革計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指標 (2020~2024)					主な取り組み (2024年度計画)	2024年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
			2020	2021	2022	2023	2024		
③カリキュラム改革・キャリア支援等	a)英語教室・AET 訪問	園長 主幹保育教諭 指導保育教諭	通常保育授業	8月から 実施	4月から 月2回 実施	4月から 月2回 実施	4月から 月2回 実施	AET 訪問も3年目となり、園児も講師や外国語に 対して抵抗なく、ネイティブの発音やアルファベット を学んでいる。英語教室は5年目になるの で、講師を変更し新たな取組を行なっていく。	2024度で英語教室を廃止し、AET 訪問を月 2回行った。外国人講師によるネイティブな 発音や英単語を身近に学ぶ事ができた。毎年 のクリスマス発表会ではその成果を歌や劇で 保護者に向けて発表できている。 体育教室での児童体育指導が園児・保護者に 定着した。度々新たな講師への変更があった が、園児も抵抗なく参加する事ができてい る。職員が体育講師の専門的な指導方法を学 び、運動会では見応えある組み立て体操を行 う事ができた。また、家庭教育学級では親子 体育教室を行い保護者に周知している。 体育課外教室では、園児、小学生合わせて 50名ほどの利用者があり人気がある。今後 も継続していく。
			通常保育授業	7月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	体育教室の講師が今年度も変更となる。講師には 運動会の組立体操の指導もお願いし、体育教室以 外でも専門的な指導方法を反映させていく。習字 教室は課外教室のみだが、園児・小学生の他保護 者も入会しており、地域貢献として今後も継続す る。	
			体育課外教室	7月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	運動遊びを通して子どもの生きる力を伸ばす体育 教室は、多くの園児・小学生及び保護者に人気が ある。今後も継続する。	
			サッカー課外教室	7月に実 施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	指導者の交代が続き、サッカー教室の参加人数が 減少している。体験教室やお知らせなどを園児に 配布し通常保育でのサッカー教室を存続させる。	
			習字課外教室		3月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	就学が間近になり、年長児の入会が増えた。地域 のニーズに沿っており、今後も継続する。	
	c)理科教室	年4回	未実施	6・7・10・ 12月	5・6・7・ 10月	5・6・7・ 10月	5・6・7・ 10月	地域と協力し、今年度も田んぼでの泥んこ遊びを 実施する。また米農家の方にご指導をいただきな がら、園内にバケツ田んぼを設置し稲作を行なう。 地域ボランティアに支えられ、保育教諭だけでは できない指導や、地域との触れ合いの機会を作 り、園外保育等で、地域に根付いた活動を拡充す る。	幾度の指導者交代より、課外サッカー教室の 利用者が減少し入会希望も芳しくない為、親 子サッカー教室を開催した。2025度は家庭 教育学級内で親子サッカー教室を行うとともに チラシを配布し、保護者に周知していく。 2024年8月より新たな講師に変更。習字課 外教室では、4・5歳児や小学生の入会が増 えている。今後も継続していく。
			未実施	6・7・10・ 12月	5・6・7・ 10月	5・6・7・ 10月	5・6・7・ 10月	地域の輪が広がり、例年のどろんこ遊びの実 施の他、2024年度から米農家及びJA常陸職 員の指導を受け、種もみからのバケツ稲作を行 うことができた。園周辺の恵まれた環境を 活かした活動が地域に根付き、活動の幅を広 げることができている。	
			サツマイモ・ジャガ イモ・大豆栽培	通年	通年	通年	通年	開園より野菜などの栽培を行ってきた。園児 が自発的に、種から生育した作物を収穫後、 調理し食べきるという一環した食育活動を行 う事で、園児や保護者の食への関心が高ま った。またICT教育としてタブレットで調べ学 習を取り入れ、園児の好奇心や探究心を培 った。2023年度に給食の残食を利用したコン ポスト堆肥を作成し、2024年度に地域ボラ ンティアから提供頂いた米糠や粗穀を合 わせ、3箇所の畑の土壤改良を行った。	
	d)食育	調理体験（よもぎも ち・お楽しみ保育・野外 調理）	7月に実 施	4・7月 に実施	4・7月 に実施	4・7月 11月に 実施	4・7月 11月に 実施	食育にICTを取り入れ、園児が自ら調理をす ることで食への関心を高め、SDGsの中で実践でき るものを探し実践する。2023年度に行った給食 の残食を使用したコンポストなど、 持続可能な取り組みを考える。エコクラブに入会 し、活動を内外に広めていく。	2025年2月に、いなだこども園、かさまこ ども園、ともべ保育園3園の年長児が合同 で、交流を兼ねて小流礼法研修に参加し正し い姿勢、所作を学んだ。
			未実施	未実施	実施なし	2月に実施	2月に実施	近年、子どもの電子機器の使用による近視、筋力 低下による姿勢の乱れ等が問題視されている。そ れらを予防するために、積極的な外遊びの他、正 しい姿勢、所作を学ぶ。	
	e)小笠原流礼法指導	小笠原流礼法指導	3月に実施	3月に実施	3月に実施	2月に実施	6・2月に 実施		
		職員研修	3月に実施	3月に実施	3月に実施	2月に実施	年1回実施 (合同研修)		

4人事政策と人材育成、人件費の削減計画	中期目標	担当責任者(役職名等)	評価指標 (2020~2024)					主な取り組み (2024年度計画)	2024年度及び中期計画期間の主な実績・評価等	
			2020	2021	2022	2023	2024			
a)人事政策について適正な職員配置	人材確保	園長	正職員 1名採用 看護師 1名採用 用務員 1名採用	正職員 1名昇格 常勤職員 1名採用 1名昇格 用務員 1名採用	正職員 2名採用 常勤職員 2名採用 看護師 1名採用	正職員 3名採用 2名昇格 非常勤 職員3名 採用 障害者雇用 1名採用	正職員 3名採用 2名昇格 常勤職員 1名採用	短大より3名を正規職員として採用。常勤保育教諭を1名採用した。新人の保育教諭が増えるので、ゆとりあるクラス配置を行い、経験のある保育教諭を指導役としながら、園全体でサポートしていく。働きやすい環境づくりを心がける。	若手職員が増加したこと、指導する中堅職員も自身のスキルの再確認のきっかけになり、全体的なモチベーション向上につながった。また、職員の経験値を加味したクラス配置をしたこと、職務分担や係活動も職員それぞれが自ら進んで行う姿が見えた。	
								5月に非常勤職員、11月に障害者枠の用務員が、自己都合により退職。今年度は4名保育教諭を採用でき、十分な人材を確保できたので、今いる職員の質の向上を目指す。	正規職員（再任用）1名が2024年8月より3か月間の介護休暇を取得後にパートタイム職員へと任用替えた。また1月末に自己都合により正規職員（ひよこ組）が退職となつたが、柔軟な職員配置でクラスの園児や業務内容のサポートにあたった。職員の退職や就労時間減がある、協力体制がしっかり構築されていた。	
	b)人材育成について定期的な園内研修・会議	園長・主幹保育教諭	園内研修報告会	6月に実施	1月に実施	6月・10月に実施	6月・10月・3月に実施	6月・10月・3月に実施	令和6年度のキャリアアップ研修は、昨年オンライン研修の時間確保が難しかった事を踏まえ、今年度は集合型研修に参加する。また新たに姉妹園となつた、ともべ保育所を含めた付属園との研修及び職員交流の機会を作り、各園の特色ある保育活動を学んでいく。	2024年度は、新規採用職員が4名おり、職員配置に余地があった為、キャリアアップ研修をe-ラーニングで受講した。
			常勤会議 以上児会議	6月	6月 10・1 月に実施	6月 10・1 月に実施	6月 10・1 月に実施	6月 10・1 月に実施	同園長のまま6年目を迎えたが、主幹・指導保育教諭の交代後も潤滑な園運営ができている。園長と職員の個別面談だけでなく、職員間でもミーティングや会議、交流会を通して、意見交換し、全体で共通理解を深めていきたい。	姉妹園合同で、リトミック・リズム遊び・小笠原流礼法の研修に参加した。研修を通して、各園の強みや職員の指導方法が把握できる為、行事の見学交流等を継続していく。
	園長の個人面談		園長の個人面談	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	園長による年3回の職員面談では、業務だけでなく、各職員が抱える家庭状況等を確認でき、細かなフォローが出来たため、働きやすい職場環境を構築した。働き方改革に沿つて、どの年代の職員も働きやすい環境を整備していく。	
アレルギー児・障害児・医療ケア児緊急時対応研修	園長・主幹保育教諭・看護師	看護師等による園内研修	12月に実施	12月に実施	12月に実施	12月に実施	12月に実施	安全・安心な園運営のため、災害時の避難訓練だけでなく、特別に配慮が必要な園児（発達遅延・肢体不自由など）のために、それぞれに対応した緊急時対応の園内研修を定期的に行っていく。また、近年の地震災害に備え、事業継続計画（B C P）の作成を行う。	特別な配慮が必要な子については職員会議や研修を通して共通理解した。また、アレルギー児の対応については、その都度変更事項の承認を徹底し、対象児が安全に過ごせるよう努めた。	
		応急手当普及員の資格を持つ職員による園内研修	1月に実施	感染症予防のため未実施	年1回実施	年1回実施	年1回実施	2月に応急手当普及員の資格を持つ職員による園内研修を行った。今年度は笠間消防署の協力を得て、A E D外部研修を予定している。また、職員の応急手当普及員等の資格取得も、推奨していく。	2024年8月に落雷による停電で電気系統が故障した際、笠間市こども福祉課や隣接する小学校、地域ボランティアの協力により通常通り、引き続き保育を行った。園長主導のもと事務室とクラス担当職員間の報連相もスムーズに行われ、体調不良者を出すことなく、緊急時でも安全に保護者へ引渡すことができた。	

5 経費削減計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指標 (2020~2024)					主な取り組み (2024年度計画)	2024年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
			2020	2021	2022	2023	2024		
	外部発注経費の削減 施設設備の適切な管理と状況把握 備品購入・管理の徹底	園長・主幹 保育教諭	職員除草作業 職員空調清掃 壁紙点検 (3月) 体調不良児用PC購入	6月・7月・8月 月4回実施 12月実施 壁紙修繕 iPad7台 購入	6月・7月・8月 月実施 4月・12月実施 年1回 年1回 電子ピアノ3台の 購入	6月・7月・8月 月実施 年1回 年1回 変圧器 Wi-Fi 非常用放送設備 防犯カメラ修理 キュービクル内避雷器機2箇所設置 トランボリン購入 行事用炊飯器・ホットプレート購入	6月・7月・8月 月実施 年1回 年1回 浄化槽排水ポンプの交換 調理室給水器交換 パティオ内への田んぼ設置 小学校土手から園庭への雨水流入の対策 パティオ内にバケツ稻設置	2024年度も除草作業を職員が行うが、急勾配な斜面は外部委託も視野に入れていく。実施箇所が広大な為、保護者及び地域ボランティアにもご協力いただき、整備していく。小学校側斜面は学務課負担。 空調設備清掃業者をダスキンに変更した。エアコンの分解清掃は3エリアにわけ、年1エリアずつ実施していく。 職員の学期ごとのフィルタ清掃も引き継ぎ実施する。 給湯器を2月に修理した。毎年厨房設備に不具合が出ている。修繕箇所は早急に対処して施設を適切に管理し、大事に使用していきたい。また、事務室のGHP空調設備も度々エラーが出るため、今年度清掃時点検予定。 物価高騰により、保育教材も以前のような購入が難しくなった。節約に努めているが、質の高い保育・教育活動のため、必要なものは希望を出す。楽器も移譲前から使用しているものが多く、合奏で使用するものは徐々に買い替えた。	急勾配な斜面の除草作業は、地域の方やボランティアの方の協力を得られなかつた為、2024年度も職員で実施した。小学校側斜面は笠間市学務課負担であるが、外部に委託しての除草作業は年に1度(10月)のため、小学校職員と合同で除草作業を2回実施した。 職員の学期ごとのエアコンフィルタ清掃に加え、3月には、空調設備業者(ダスキン)によるエアコン、厨房清掃を実施した。 2024年8月の落雷で、変圧器・Wi-Fi機器、非常用放送装置・防犯カメラに不具合が生じた為、各所保険にて修繕した。変圧器Wi-Fiは8月、放送設備・カメラは2月に修繕完了。5年間で落雷が2回あった為、3月に笠間市負担でキュービクル内に避雷用ブレーカー2台を新たに設置した。 遊具や施設内備品点検を毎月行い、修繕を要する箇所が出た際は早急に対処し、修繕できそうなものに関しては職員が対処していった。食育活動に必要な炊飯器、ホットプレートを購入する事ができた為、今後の食育活動により一層力を入れていく。

6 施設整備計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指標 (2020~2024)					主な取り組み (2024年度計画)	2024年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
			2020	2021	2022	2023	2024		
	a)園庭整備 b)保健室設備の拡充 c)園児用iPadの活用	園長・主幹保育教諭 園長・看護師 園長・指導保育教諭	クライミングマウンテンの設置 AED購入 未実施	はん登棒・雲梯の設置 砂場の砂追加 ベット付き収納棚の設置 年4回	運動教具の購入 パティオ計画 体調不良時用保育用品の購入 月1回	パティオ内への田んぼ設置 小学校土手から園庭への雨水流入の対策 月1回	小学校側土手整備 パティオ内にバケツ稻設置	パティオ計画にある、移動式の田んぼを設置した。ビオトープ作りや稻作を行い、限られたスペースを有効に利用し、園児の自然を育む心を伸ばす。 小さな擦り傷や発疹など感染症以外で体調不良児の保健室利用が増えている。ヒヤリハットを活用し、大きなケガは未然に防ぐ。今年度はアレルギー児の入園もあり、看護師が担当職員と協力し、対応していく。 現在4・5歳児の野外活動でタブレットを使用している。その他にも職員が研修で学んだアプリを使用し、プログラミング教室を実施し、卒園までに保護者に向けて披露する機会を作る。	パティオの限られたスペースを有効活用して移動式田んぼ(バケツ稻)を設置した。園児の食への関心、自然を育み、心を伸ばす体験ができた。また、プールのカバーは、経年劣化のため交換が必要だった。業者より購入を検討したが高額(約35万)だった為、UVシートを購入し加工して設置した。 共働き家庭が多い中で、仕事が休めない保護者が多く見られる。保護者支援の一環として、病後児保育が必要な現状である。開設を目指し保護者のニーズに応えていく。 植物や生き物などの写真を撮影する際タブレットを使用し調べる習慣や知識を得た。また、就学後のGIGAスクールに向け、タブレットの使用方法や決まりを指導した。